

# 2022年3月期 第2四半期決算説明会

2021年 11月1日

代表取締役社長  
小林 茂



© 日本ガイシ・kero/dwarf



© 2021 NGK INSULATORS, LTD. All rights reserved.

1

日本ガイシ株式会社2022年3月期第2四半期の決算説明会を始めます。  
本日はご多用の中、ご参加いただき、誠にありがとうございます。

- 2022年3月期 第2四半期 連結決算概要  
2022年3月期 通期 業績見通し
- 事業セグメント別 今期見通し・展望
- 設備投資・減価償却費／研究開発費
- 中期目標・事業ポートフォリオ（業績・ROIC）
- 中長期の展望（デジタル社会／カーボンニュートラル関連需要）
- 財務（資本政策・自己株買付／要約CF／総資産・配当）

ご覧のような内容でご説明させていただきます。

22年3月期 第2四半期 連結決算概要

| (億円)                 |           | 21年3月期       | 公表値<br>4月→7月             | 22年3月期       | 前年同期比             |
|----------------------|-----------|--------------|--------------------------|--------------|-------------------|
| 売上高                  |           | 1,949        | 2,400→2,500              | 2,502        | 為替影響<br>+49 + 28% |
| 営業利益                 |           | 116          | 340→420                  | 459          | +14 + 297%        |
| 経常利益                 |           | 122          | 320→400                  | 439          | +259%             |
| 親会社株主に帰属する<br>四半期純利益 |           | 73           | 250→300                  | 320          | +340%             |
| 換算レート                | ドル<br>1=円 | 107円<br>121円 | (105→108円)<br>(125→129円) | 110円<br>131円 | +3円<br>+10円       |

前年同期比 増収・増益 利益は7月公表値を上回る

■ セラミクス

乗用車・トラック販売回復を背景に自動車関連製品の需要が拡大し、増収・増益。

■ プロセステクノロジー

好調なファウンドリ投資を背景に半導体製造装置用製品の需要が増加。

■ エレクトロニクス

双信電機が連結除外となった影響や、収益認識基準の変更等もあり減収。  
HDD用圧電素子や金属製品の需要増により増益。

■ IGBT・インフラ

がいしで費用削減・価格改定効果により赤字縮小。

© 2021 NGK INSULATORS, LTD. All rights reserved.

まずは終わりました上半期の業績についてご説明いたします。

ご覧の通り、昨年のコロナ禍で大幅な自動車販売減となった前年同期と比べ、大幅な増収、増益となり、利益は7月公表値も上回る結果となりました。

売上高は2,502億円、営業利益は459億円、前年同期比で売上高は28%増加しました。大きな理由としては乗用車販売台数の回復によりセラミックスの自動車関連製品が増収となったほか、プロセステクノロジーの半導体製造装置用製品も増え、大幅な増収となりました。

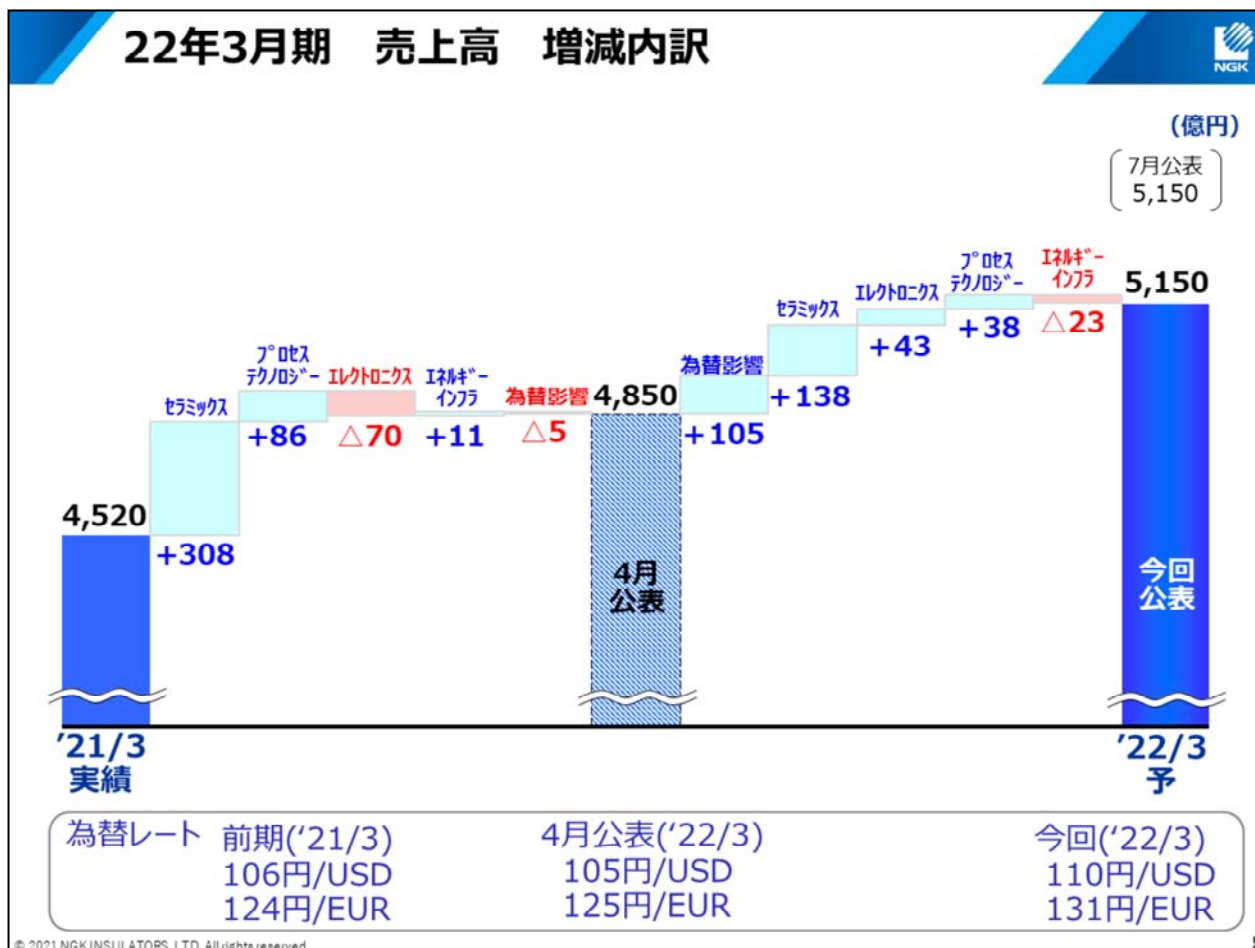
営業利益は、減価償却費等の費用増加もありましたが、増収効果により前年同期比297%増の459億円となりました。

四半期純利益については、前年同期比340%増の320億円となりました。

| 22年3月期 連結決算概要（通期見通し）                 |                                                                                                  |        |              |        |             | NGK  |
|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|--------------|--------|-------------|------|
| (億円)                                 |                                                                                                  | 21年3月期 | 公表値<br>4月→7月 | 22年3月期 | 前期比         |      |
| 売上高                                  |                                                                                                  | 4,520  | 4,850→5,150  | 5,150  | 為替影響<br>+99 | +14% |
| 営業利益                                 |                                                                                                  | 508    | 700→800      | 830    | +42         | +63% |
| 経常利益                                 |                                                                                                  | 530    | 680→790      | 820    |             | +55% |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益                  |                                                                                                  | 385    | 500→580      | 600    |             | +56% |
| 換算レート                                | ドル                                                                                               | 106円   | (105→107円)   | 110円   |             | +4円  |
|                                      | 1-円                                                                                              | 124円   | (125→127円)   | 131円   |             | +7円  |
| 売上/利益共に過去最高※を更新                      |                                                                                                  |        |              |        |             |      |
| ※売上：19年3月期 4,635億円、営業利益：16年3月期 809億円 |                                                                                                  |        |              |        |             |      |
| ■セラミックス                              | 排ガス規制の強化に加え、乗用車・トラック販売の回復を背景に需要が拡大。償却費等が増加するものの、増収効果が上回り増益を見込む。半導体不足や物価高騰の影響等、不透明な要素もあり今後の動向を注視。 |        |              |        |             |      |
| ■パワーデバイス                             | 高水準なファウンドリ投資が継続。需要が堅調に推移し増収・増益。                                                                  |        |              |        |             |      |
| ■エレクトロニクス                            | 金属製品やパッケージ製品の需要増により増益の見通し。                                                                       |        |              |        |             |      |
| ■インバータ                               | がいしは需要低調も、費用削減や価格改定効果等により黒字化の見通し。                                                                |        |              |        |             |      |

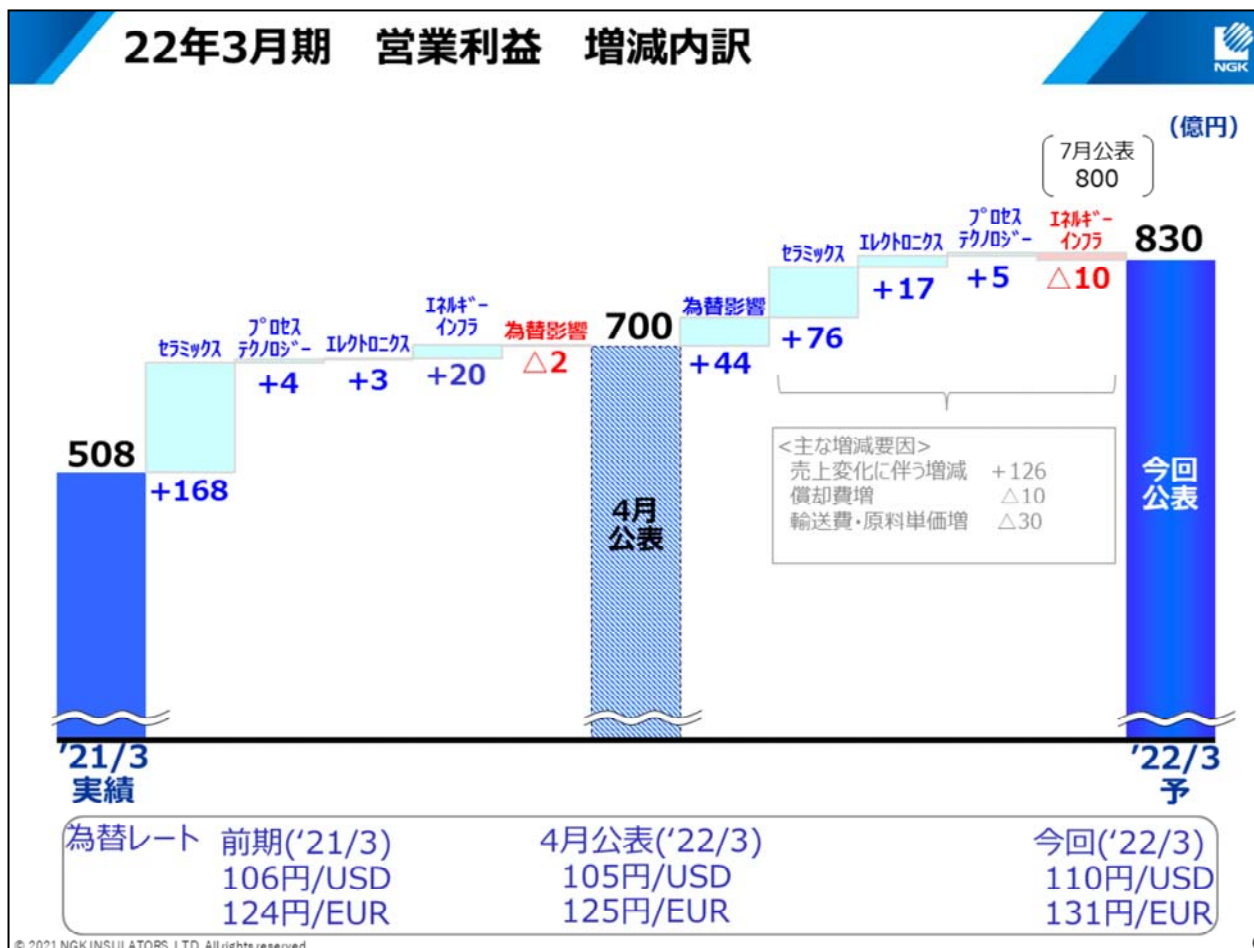
続きまして通期の業績は、売上高は7月公表値と同じ5,150億円、営業利益は7月の公表値800億円に対して830億円と若干上回っており、売上高、利益共に過去最高を更新しております。

大きな理由としては、為替、自動車販売の回復、エレクトロニクス関連及び半導体製造装置など電子部品関係製品が伸びていることによります。



売上高の通期業績見通しについて前年度からの変化をグラフで示しております。

4月度に公表しました売上高4,850億円に対して、為替の影響、自動車販売の増加、エレクトロニクス関連・半導体製造装置用セラミックスの増加に伴って売上高5,150億円となりました。



利益につきましても4月度に公表しました700億円から、為替影響、セラムックス、エレクトロニクス、プロセステクノロジーなどエネルギーインフラ以外は全て伸びており、830億円を見込んでおります。

# セラミックス事業の今期見通し (対4月公表比)



## ●自動車関連

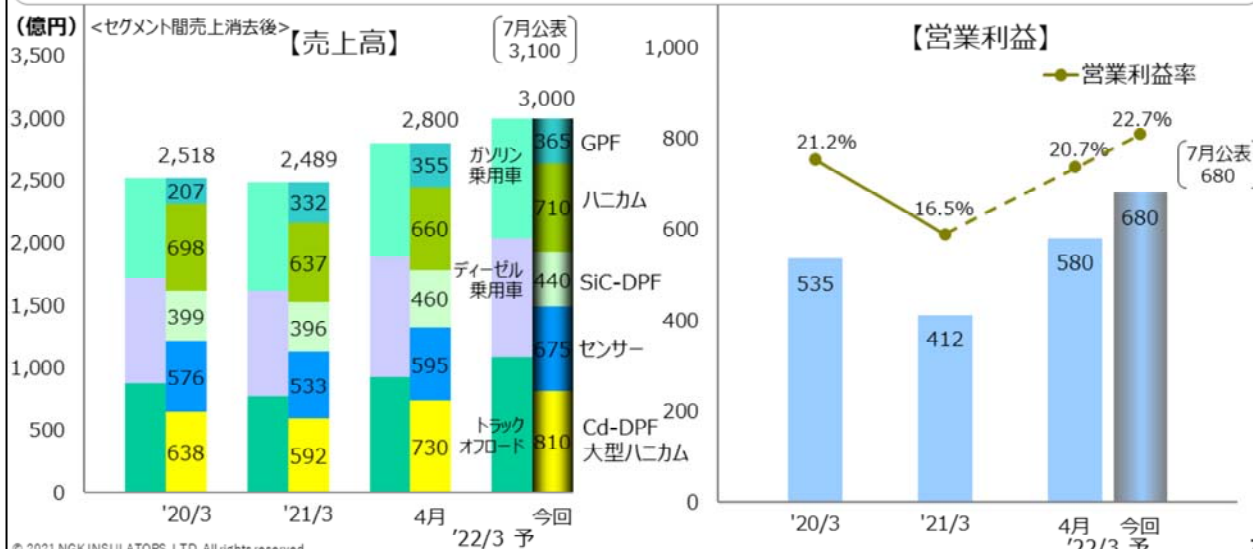
半導体不足に伴う自動車メーカーの生産調整や足元で中国経済減速等の影響があるものの、期首想定に比べ順調な自動車市況を受けて各製品の需要が増加する見通し。利益は物流費等の増加を増収効果がカバーし、4月見通しを上回る見込み。一方、更なる半導体不足影響や物価高騰影響等、不透明な要素も多く、今後の動向を注視する。

・GPF/ハニカム (ガソリン乗用車向け)：乗用車市況の回復を受けて、需要は堅調に推移する見通し。

・SiC-DPF (ディーゼル乗用車・トラック向け)：自動車メーカーの生産調整等の影響を受けて、4月見通しから微減。

・センサー (ディーゼル乗用車・トラック向け)：乗用車市況の回復と在庫回復の動きが重なり需要が増加。

・Cd-DPF/大型ハニカム(トラック向け)：好調なトラック市況を背景に需要は増加する見通し。



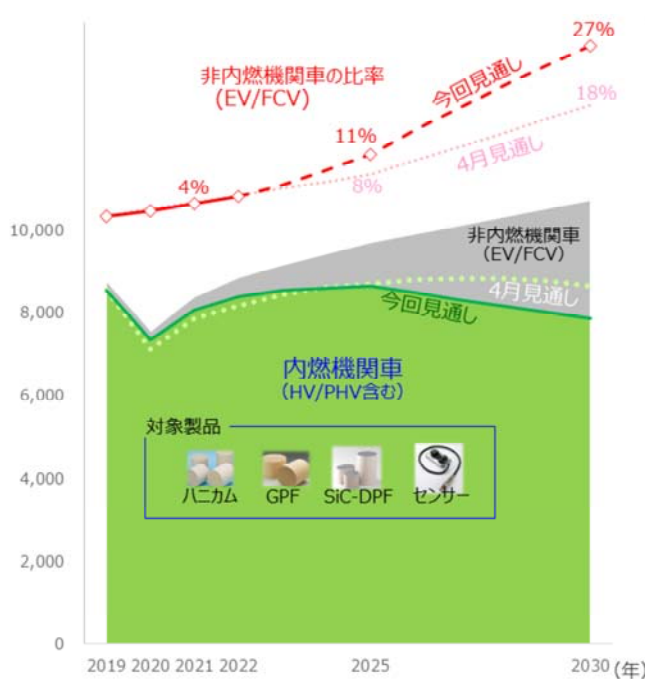
引き続き、セグメント別に業績見通し、事業環境や課題について、前回4月の見通しからの変化点を中心にご説明します。

まずはセラミックス事業です。自動車販売は欧米・中国・日本を含めて非常に活況でございます。懸念点は更なる半導体不足による車両生産台数の減少や、資材の価格高騰などがございます。ただし自動車は生産すれば売れる状態が続いており、またトラック関係での物量が伸びており、トラックは欧米で販売が好調です。セラミックス事業としては今期は目標としている3,000億円を達成できると期待しています。

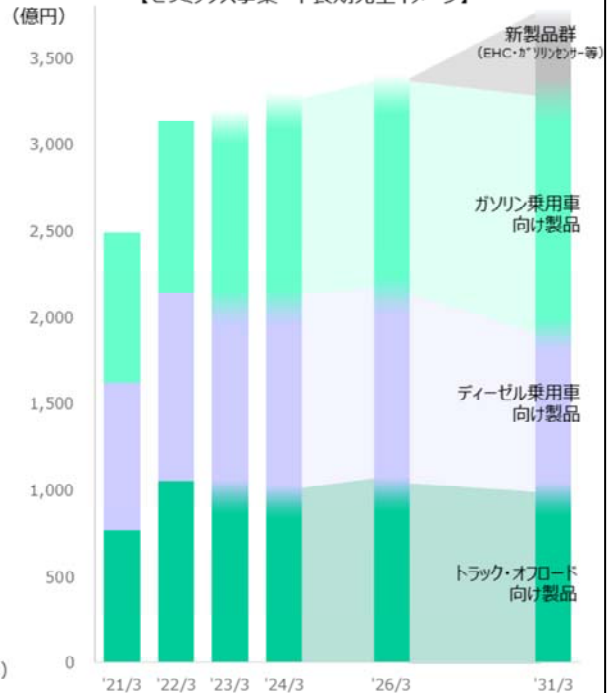
## セラミックス事業の展望



(万台) 【乗用車販売台数 見通し】(当社前提)



(億円) 【セラミックス事業 中長期売上イメージ】



2025年頃までは自動車需要の増加と規制強化を背景に既存製品群の収益が拡大。2025～2030年の非内燃機関車の比率は欧州・中国を中心にEV化の進展を見込み、4月見通しより厳しい前提を今回設定。内燃機関車の需要は漸減するものの、更なる規制強化に対して新製品を含む高付加価値品を投入するなど、中長期で収益の維持・拡大を目指す。

© 2021 NGK INSULATORS, LTD. All rights reserved.

8

セラミックス事業の将来の展望です。

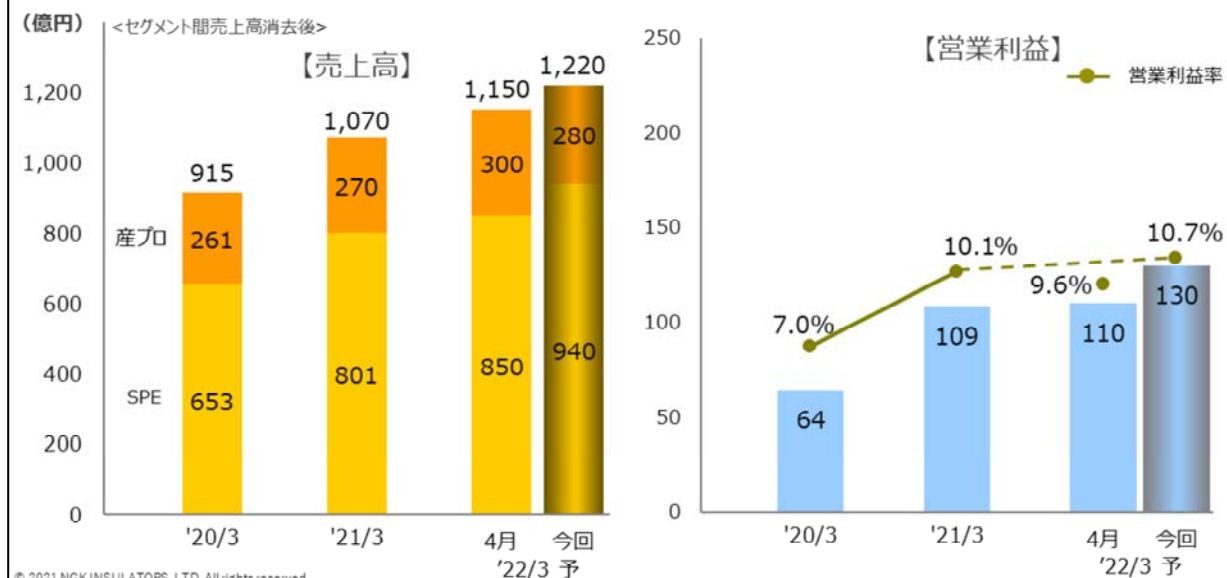
EV化の進展を懸念され当社の業績が伸びないと思われるかもしれませんが、実際はEV化が直ちにくるわけではありません。2030年ぐらいまでがピークだと思っておりますが、それぞれの地域で自動車のEV化の進展は異なります。ヨーロッパが最も先に進んでいきます。次に中国が進んでいきますが、中国政府が半分はHEV・PHEVを使うと明言しており、内燃機関が半分は残ると考えられます。米国もカリフォルニアを中心にEV化が進むと言われていますが、現時点ではPHEVも認める形になっているほか、東南アジアを始めインド等もEV化はなかなか進まないと言われております。総じて言うと当社としては内燃機関が無くなることは2030年まではないと想定しております。

## ●半導体製造装置用製品 (SPE)

高水準なファウンドリ投資を背景に半導体製造装置需要は4月想定を上回り、当社需要も堅調に推移する見通し。

## ●産業プロセス

リチウムイオン電池正極材用加熱装置の需要は活況も、一部投資計画に遅れがあり、4月見通しを下回る見込み。



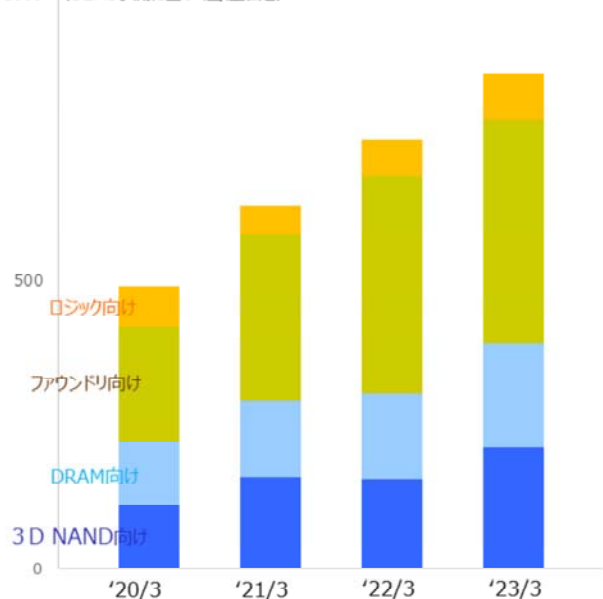
次にプロセステクノロジー事業です。

猛烈に半導体需要が高まっており、それに伴い半導体製造装置メーカーが増産につぐ増産を重ねています。当社としてもこの事業は相当右肩上がりになることを期待しています。拡大する需要に対して当社も追随していく必要があると考えています。

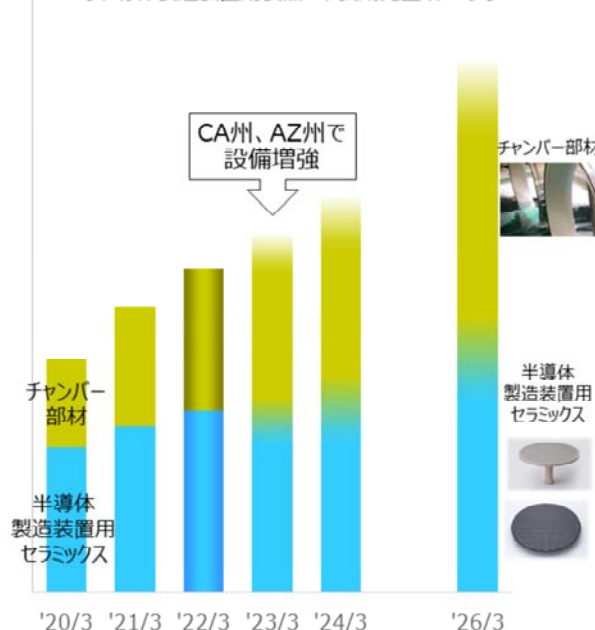
産業プロセス事業についてですが、リチウムイオン電池の正極材用加熱装置の需要が活況で、中国の需要が爆発的に伸びています。それに伴い相当多くの引き合いがきており、中国メーカーと価格競争しない分野で事業を伸ばそうとしています。今期は一部で投資計画に遅れがあり、4月見通しを下回る見込みですが、将来的には期待できる分野です。産業プロセス事業はカーボンニュートラルに向けた製品を扱っているため、2030年以降のカーボンニュートラルを見据えると非常に重要な事業です。

## ■半導体製造装置用製品

(億円) <用途別/国別 半導体前工程製造装置 投資動向>  
(SEMI予測に基づく当社推定)



【半導体製造装置用製品 中長期売上イメージ】



高性能ロジック半導体へのシフト、データストレージ容量の増加等を背景に、ファウンドリ向けを中心に中期的に高水準な投資が継続し、半導体製造装置需要は大幅に増加する見通し。需要の増加を受けて、半導体製造装置用セラミックス・チャンバー部材共に将来の物量拡大が期待できる。チャンバー部材は米国CA・AZ州の各拠点で設備増強を実施し、将来の需要増に対応していく。半導体製造装置用セラミックスは、多治見工場を中心にDXを推進し、更なる生産の効率化を進めていく。

© 2021 NGK INSULATORS, LTD. All rights reserved.

10

半導体製造装置用製品の今後の展望です。

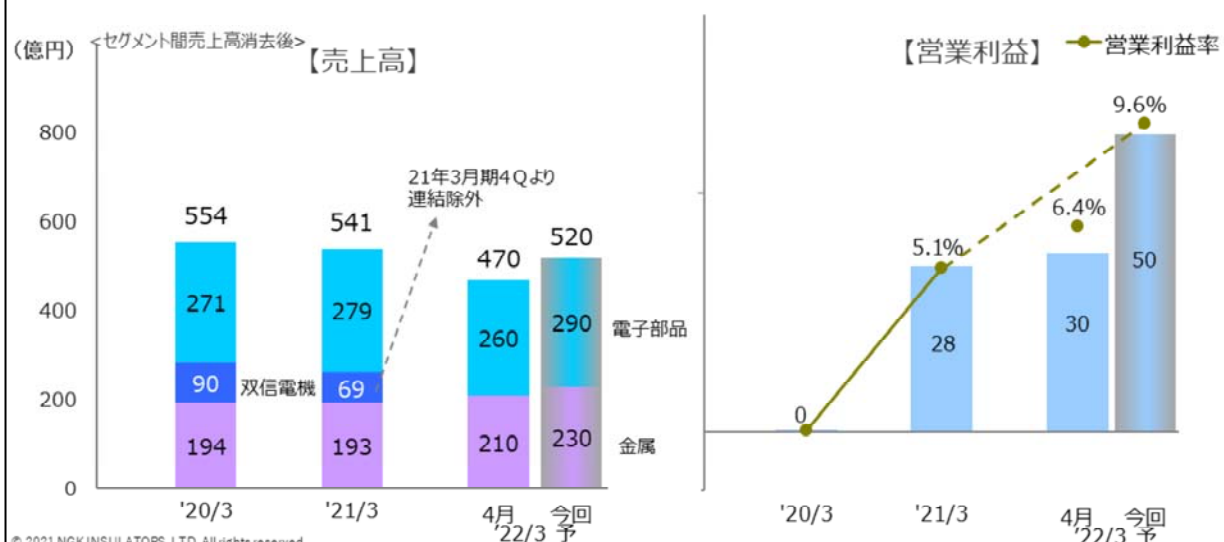
半導体製造装置用製品は右肩上がり、当社顧客の各社様も需要拡大を予想しております。当社も需要拡大に追随し、売上を伸ばしていきたいと考えています。

## ●電子部品

HDD用圧電素子は、好調なデータセンター投資を背景に順調に需要が拡大し、売上・利益共に4月見通しを上回る。  
SAWフィルター用複合ウエハーは、4月想定通り堅調に推移する見込み。  
セラミックパッケージは、水晶デバイス向け需要が増加するほか、携帯基地局向けも需要が増加。

## ●金属

自動車需要の回復に加え、中国家電向けに需要が増加する見通し。



次にエレクトロニクス事業です。

ハードディスクドライブ（HDD）用圧電素子は、データセンター等で需要が拡大し、売上・利益ともに4月の見通しを上回る見込みです。SAWフィルター用複合ウエハーについても4月見通しどおり順調に需要が伸びています。セラミックパッケージは産業の塩と呼ばれている水晶デバイス向けの需要が増加しているほか、携帯基地局向け需要が増加しており堅調に推移しています。

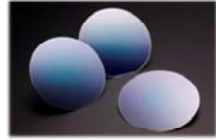
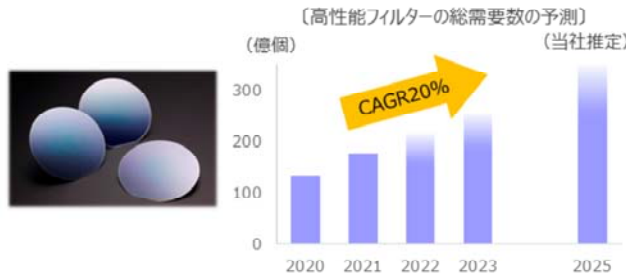
金属事業は自動車需要の回復に加え、中国の家電向けに需要が増加し、売上が伸びるとともに利益率が改善していく見通しです。

# エレクトロニクス事業の展望

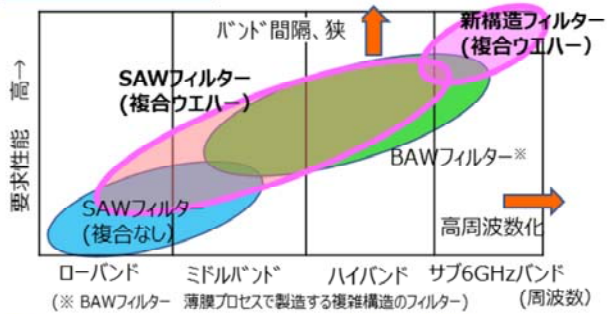


## ■ SAWフィルター用複合ウエハー

温度特性を高めた高性能SAWフィルター用複合ウエハー。通信システムの高度化により要求性能が高まると共に、携帯端末のフィルター搭載数が増加し、高性能フィルター市場は年率20%程度の拡大を見込む。



### 複合ウエハーの対象領域



高性能フィルターではBAWフィルターが先行するが、SAWフィルター用複合ウエハーの更なる開発を進め、拡大する需要に対応。

© 2021 NGK INSULATORS, LTD. All rights reserved.

## ■ HDD用圧電素子

主としてデータセンターのニアラインサーバーに用いられる大容量HDD向けマイクロアクチュエーター。新型コロナによるライフスタイルの変化に応じ、大容量HDDストレージ需要の拡大が継続。SSDに対するコスト優位性確保のため、HDDの更なる大容量化も進む。

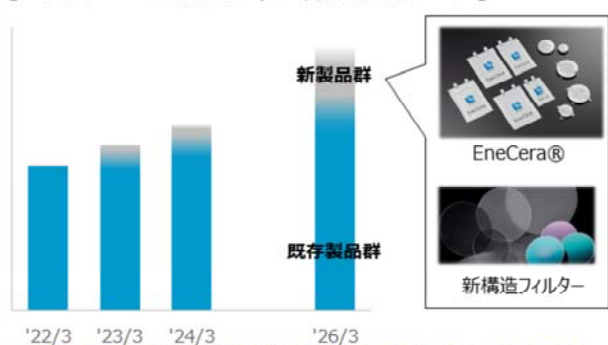
増産投資を進め拡大する需要に対応すると共に、高性能化を進める。

## ■ 水晶デバイス向けセラミックパッケージ

スマホやウェアラブル機器など通信機器の市場拡大や高周波化に伴い、小型型の需要は年20%程度の拡大を見込む。

拡大する需要に対応し、順次生産能力を増強する。

### 【エレクトロニクス事業 中長期売上イメージ】



高速・大容量通信の進展等の環境変化を捉え、既存事業強化と新製品拡充により2030年には売上高3倍を目指す。

12

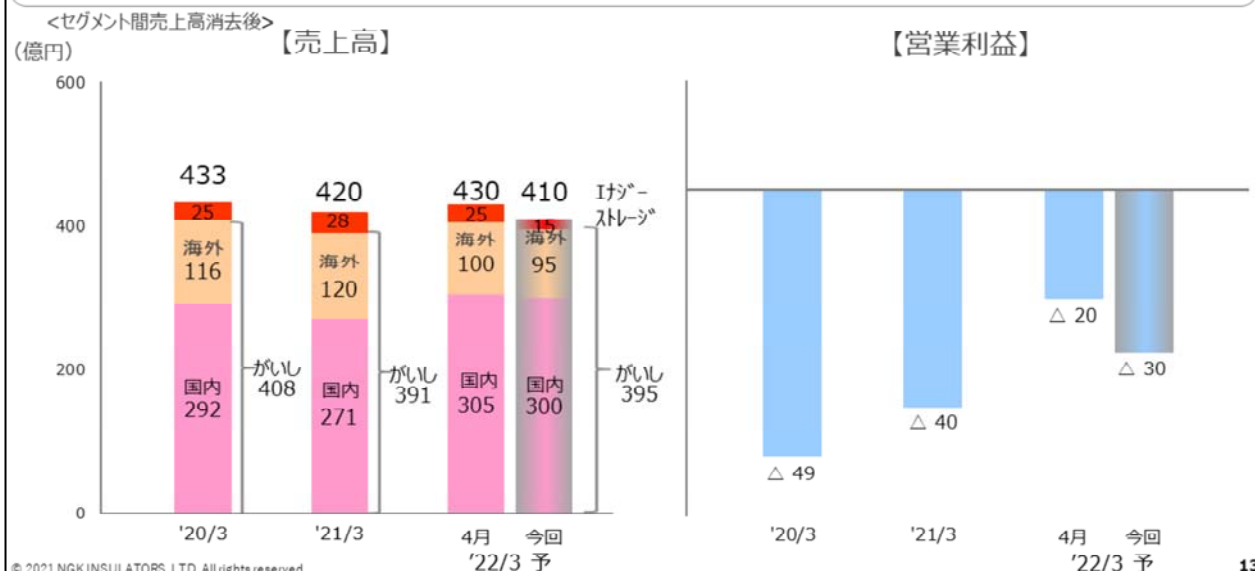
エレクトロニクス事業の展望ですが、一番好調な製品は画面右上のハードディスクドライブ（HDD）用圧電素子です。将来的に期待できるものは、SAWフィルター用複合ウエハーです。これらの製品に大きく期待しております。

## ●がいし

価格改定効果により利益は6年ぶりの黒字化を見込むも、コロナ影響に起因した海外新設プロジェクトの延期や国内需要の落ち込みにより、当初想定を下回る見通し。

## ●エナジーストレージ

脱炭素社会の実現に向けた取り組みや施策検討が動き出すも、蓄電池ニーズは4時間以下の短時間が中心。長時間蓄電のニーズは2025年以降の拡大と見込まれ、赤字が継続。



次にエネルギーインフラ事業です。

がいしは、お客様のご理解を得て価格の改定を行ったことにより、6年ぶりの黒字化を見込んでおりますが、残念ながらコロナウイルスの影響を受けて海外新設プロジェクトが延期となったほか、国内需要が落ち込んだことから4月想定を下回っています。

エナジーストレージについては、当社の大容量・長時間の特性を持つNAS電池は6時間程度の充放電が可能です。現状の蓄電ニーズは短時間が中心であり、市場に対して電池の容量が少し大きすぎる状況です。長時間の蓄電ニーズは再生可能エネルギー導入に伴い高まってくる見込みですが、日本においては国のシステム・制度をどうするかという問題があり、需要の本格的な立ち上がりは2025年以降と想定しています。

## ■NAS®電池

国内：第6次エネルギー基本計画が閣議決定され、2030年度の再エネ電源比率の見通しは約36～38%※へ拡大。  
蓄電池市場の拡大は、再エネ投資が加速する2025年以降を見込む。  
※2019年度は18%程度

### <ターゲット市場>

- ・需要家：再エネ導入やBCP対策に向けた調整力・蓄電用途
- ・系統蓄電：再エネ導入に伴う電力需給ギャップに対する調整力  
⇒再エネ導入拡大に向け蓄電池を活用する制度整備に期待。

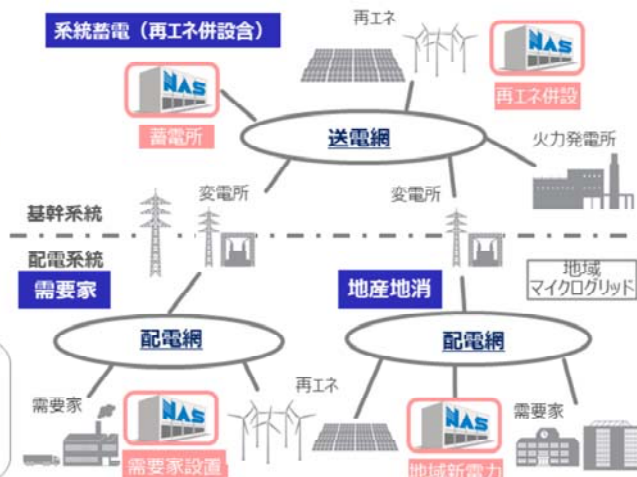
- ・地産地消：域内における電力の長期需給調整やレジリエンスの確保を目的とした蓄電用途  
⇒脱炭素に関心の高い自治体等に対し、NAS電池の特長（長時間蓄電）を活かす再エネ活用モデルを提案。

#### 〔地産地消モデルの取り組み〕

- ・2021年4月、岐阜県恵那市、中部電力ミライズ(株)と地域新電力会社「恵那電力」の設立で合意
- ・恵那市のエネルギーの地産地消による地方創生と脱炭素化に貢献

海外：欧米を中心に再エネ導入が拡大し、蓄電池ニーズが増加。  
短時間蓄電用途が中心も、長時間用途も顕在化。

BASFとの提携等により米国・欧州など各国で販売網を拡充。  
顕在化しつつある需要の確保に向けて認証取得などを進めると共に、競争力向上のためのコストダウンも推し進める。



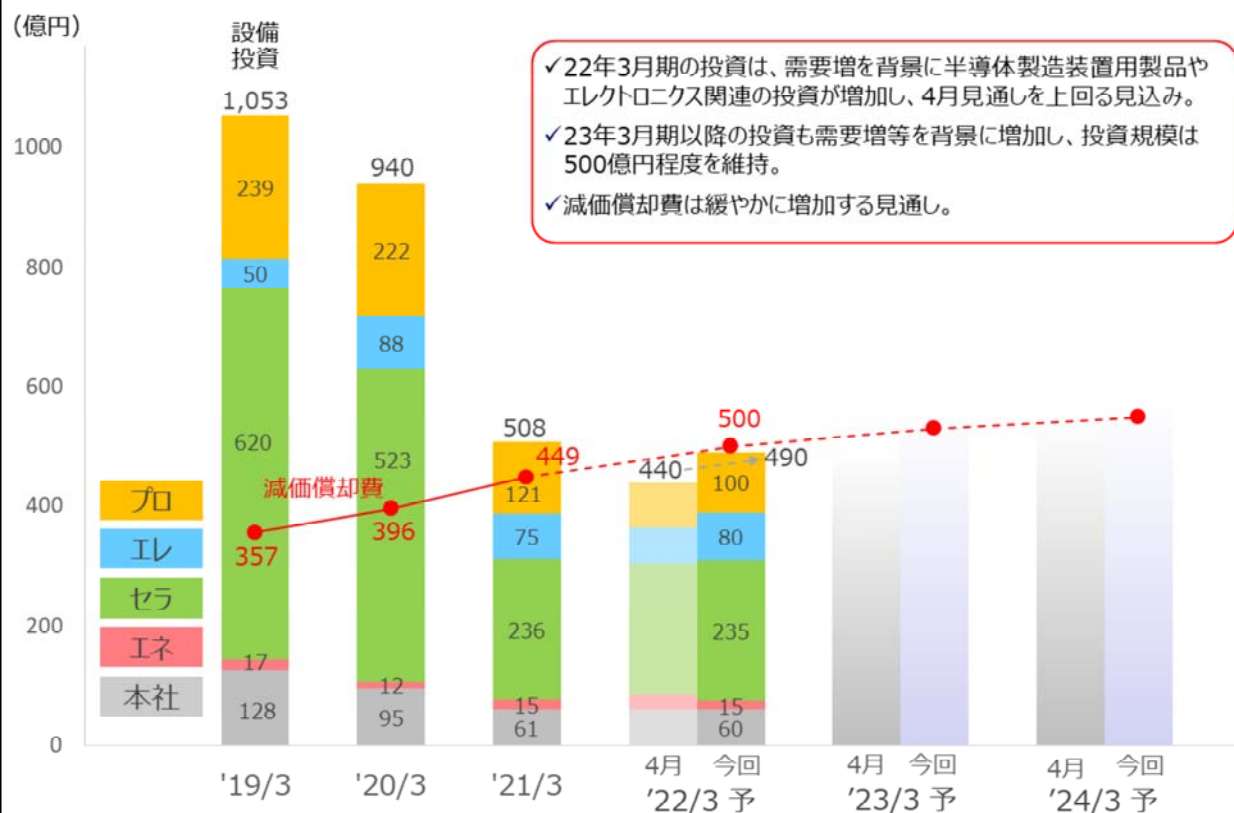
#### 〔BASF社との提携〕

- 2019年 6月 販売提携契約 締結
- 2019年11月 次世代ナトリウム硫黄電池の共同研究契約 締結
- 2021年10月 BASFのアントワープ拠点でNAS電池が運用を開始  
BASFの子会社であるBASF New Business GmbHがNAS電池を導入。NAS電池システムを保有して長期運用することで、顧客視点のメリットや具体的な使用用途を検証し、最適なビジネスモデルの構築を目指す。  
(2021年10月20日プレスリリース)

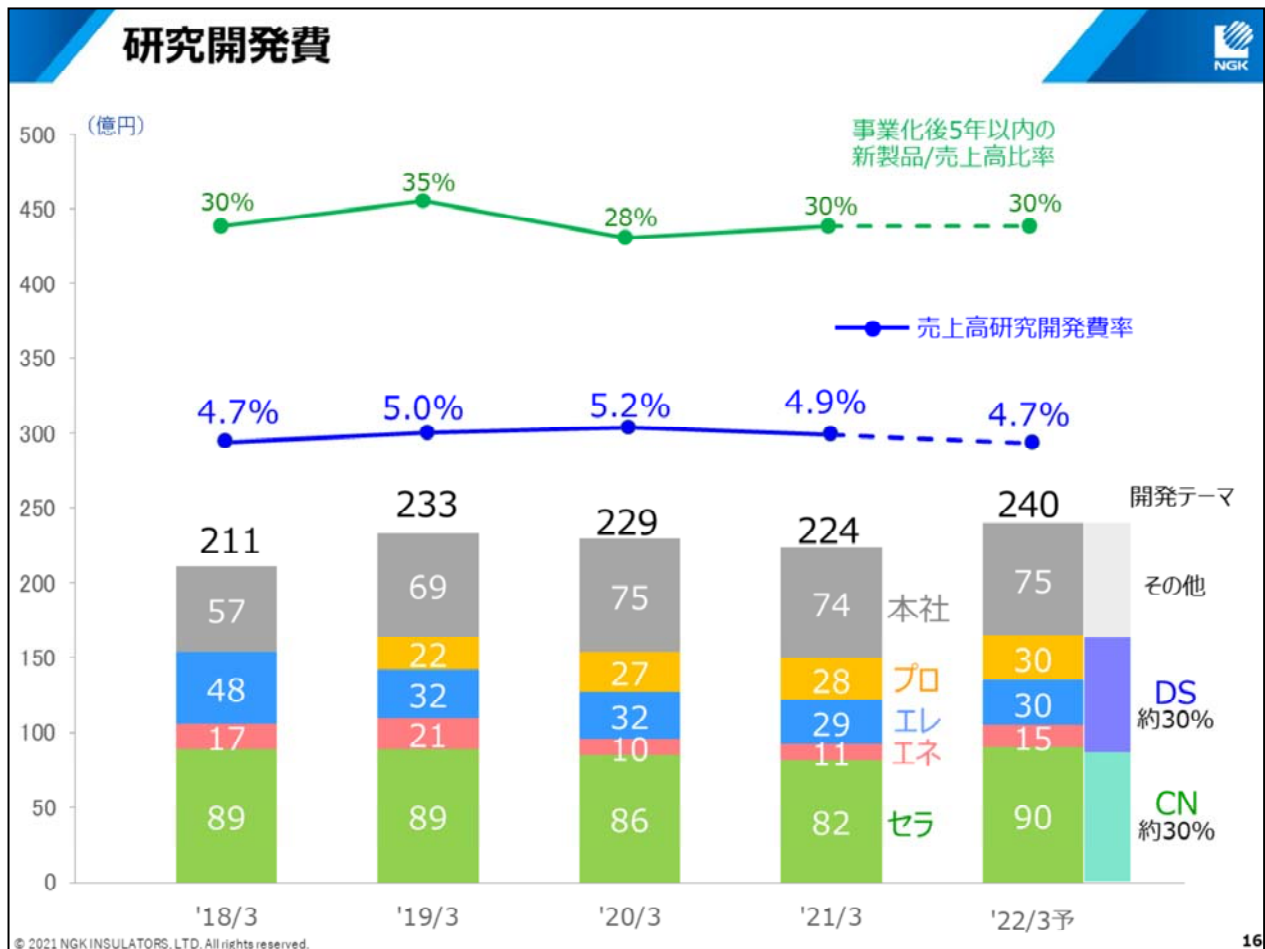
日本国内においては、バーチャルプラント等の需要家設置や、再生可能エネルギー拡大のため系統に蓄電池を入れ、送電容量が足りない時は昼間の電気を夜に送電するエネルギーシフトの需要が出てくると期待しています。しかしながら現時点では制度が確立されておらず、再エネ事業でどれだけの収入があるかはっきりしないため投資が進まず、将来的な市場は十分あるもののすぐには需要は立ち上らないとみています。一方で今年、恵那市と中部電力ミライズと共同で、太陽光発電及びNAS電池を使った恵那電力を設立しました。この反響はあり、これから地方自治体と協力していくつか地産地消を目的とした地域新電力に取り組んでいきたいと考えています。

海外においては既にBASFと提携しており、その世界的な販売網を借りて徐々に大きな引き合いを入手しています。まだ公表できるほど大きな成果は出ていませんが、太陽光発電の導入が拡大すると昼間に貯めた電気を夜に使う必要があり、特にアメリカを中心に需要が出てくるとみています。ヨーロッパでは洋上風力が増えると送電線の容量が足りず、容量が空く夜間に昼間の電気を送電するエネルギーシフトの需要が出てくるとみています。BASFは世界的な化学企業でカーボンニュートラルを強く意識しており、当社の電池のみならずリチウム・レドックスフローなど多様な電池を取り扱っています。それらの中で大容量・長時間の特性を持つ当社のNAS電池がどのように再生エネルギーをマネージできるか研究しています。その一環としてBASFはベルギーの工場に当社NAS電池を導入し、工場のエネルギーマネジメントについて実証しています。

## 設備投資・減価償却費

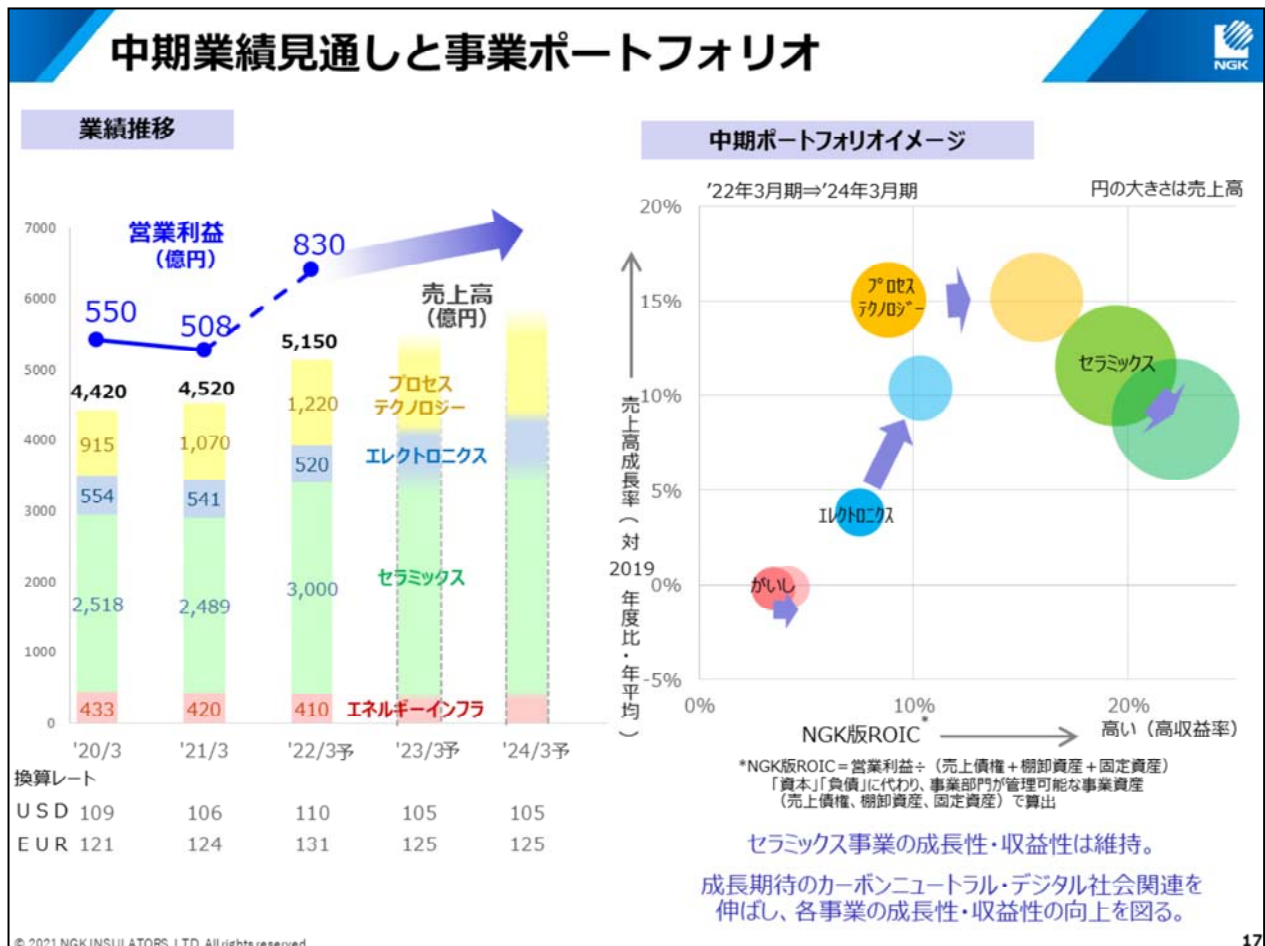


次に設備投資です。過去3年間で2,500億円の設備投資を実施し、その成果が今回の決算に表れたと考えています。自動車及び半導体製造装置用製品で需要が高まる前に投資を実施していたことで当社は業績を伸ばしております。今後は今までよりは半減し約500億円程度の投資を見込んでいます。減価償却費は増えていきますが、それ以上に売上を上げて利益を伸ばせると見込んでいます。



研究開発費です。当社の研究開発費は売上高のおよそ4～6%です。研究開発はメーカーにとっての生命線ですので、これからも売上高の5%前後を研究開発に投じて、今後10年間で3,000億円の投資を実施していく予定です。そのうち80%をデジタルソサイエティとカーボンニュートラルに係る研究に充当していきます。

2030年には新たな事業で約1,000億円の売上を上げると共に、常に事業化後5年以内の新製品売上比率を30%前後にすることを目標に掲げております。



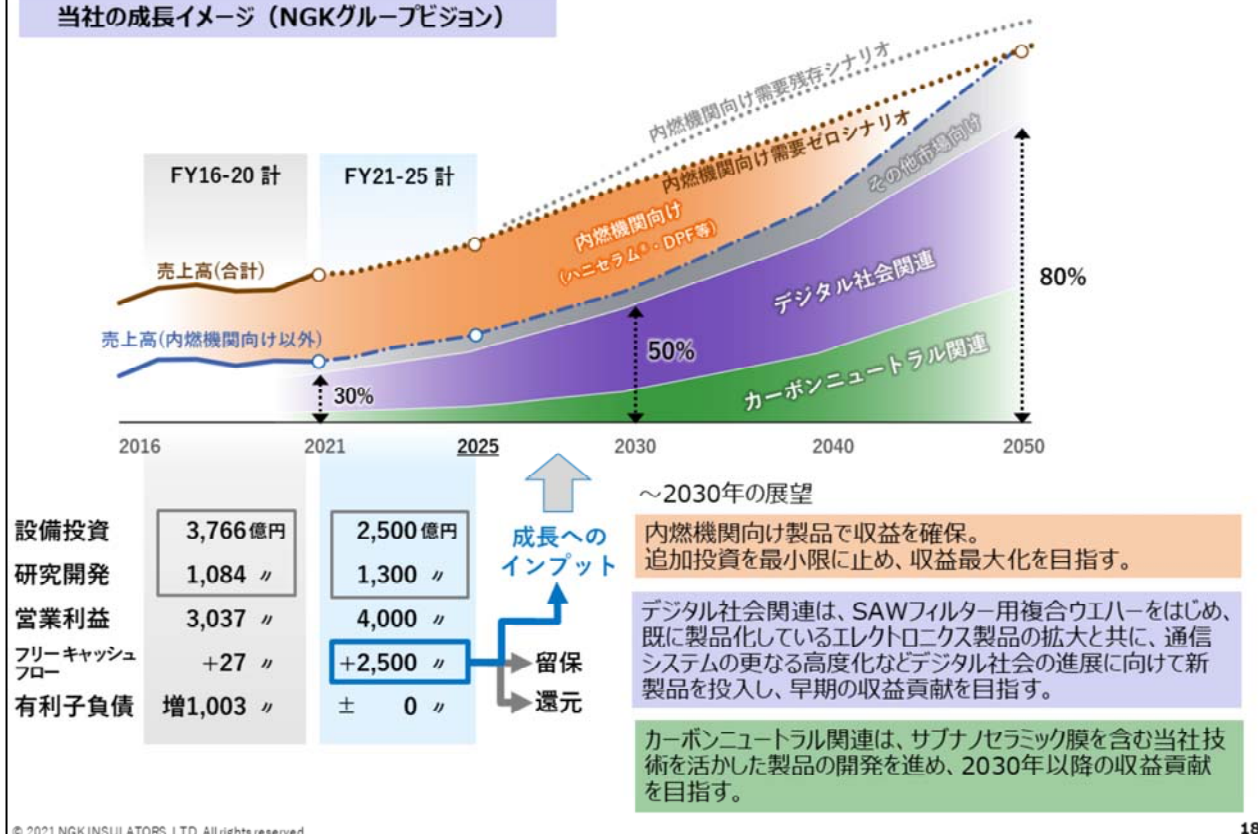
中長期的な業績の見通しについてです。

今期は売上5,150億円、営業利益830億円ですが、中期ではビジョンで掲げた売上6,000億円以上、営業利益900億円以上を目指していきたいと考えております。中心となるのは依然として内燃機関は残っているため、セラミックス事業です。成長事業としては半導体の伸びに伴うプロセステクノロジー事業。エレクトロニクス事業も底堅く、データセンター向け等いろいろな形でお客様から引き合いを受けており、堅調に推移していくとみています。当社の技術力を信じてお客様よりこのようなものを作れるかという引き合いをうけており、作れる技術さえあれば相応の売上を保っていけると思っています。

## 中長期の展望



### 当社の成長イメージ（NGKグループビジョン）



中長期の展望についてご説明します。

2025年に売上高6,000億円、営業利益を900億円にするのが当面の目標です。それに伴い設備投資・研究開発等をこれからも継続していき、2030年では内燃機関以外で5割、2050年には内燃機関が0になっても8割をデジタル及びカーボンニュートラル分野で稼ぐことで会社を伸ばしていきたいと考えています。

## カーボンニュートラル／デジタル社会関連の新製品



**CN**  
カーボン  
ニュートラル

苛酷な使用環境下で  
CO<sub>2</sub>の高精度な  
分離・回収を実現



**CO<sub>2</sub>分離膜**

独自の水熱合成技術による  
CO<sub>2</sub>を分子レベルで分離できる  
大型セラミック膜

発火のリスクがなく屋内設置が  
可能で非常用電源や  
再エネ連携を安全に実現



**亜鉛二次電池 ZNB®**

独自のセラミックセパレータと  
電解液に水溶液を使用した  
高容量で高い安全性の蓄電池

**DS**  
デジタル  
社会

IoTのメンテナンスフリー化を実現、  
カードのセキュリティを高度化、  
ウェアラブル機器を身近に



**EnerCera®**

独自の結晶配向制御技術による  
高耐熱・大容量・  
高出力で短時間充電可能な  
超小型薄型電池

5Gや次世代の  
高速大容量通信  
ネットワークに貢献



**各種ウェア**

独自の精密研磨技術と  
接合技術による  
高機能な複合ウェアなど

© 2021 NGK INSULATORS, LTD. All rights reserved.
19

こちらにあるのは開発中のものも含め当社の主な新製品です。

左上のCO<sub>2</sub>分離膜は、CO<sub>2</sub>とメタンを分子レベルで分離できる膜です。これは既に開発済みで協力企業様と共に米国テキサス州でEOR用の実証しようとしています。これができると次に産業分野に展開し、CO<sub>2</sub>のみならず窒素等、様々な分子の分離に活用できると考えており、当社のカーボンニュートラルの目玉製品となります。

当社はNAS電池、画面左下の開発中の亜鉛二次電池、右上のEnerCeraの3つの電池を持っています。簡単に言うと大きさで大・中・小となっており、亜鉛二次電池は中位の電池です。これからペロブスカイトという太陽電池がビルの側面につく時代がくると言われており、日本政府も相当な補助金を出して開発を進めています。亜鉛二次電池は安全性が極めて高く、ビルの中に設置することが可能であることから、ペロブスカイト太陽電池と組み合わせればビル自体を発電所にすることができます。このように安全性が一番大事なビルや学校などの屋内用途に向けて、発火のリスクがない亜鉛二次電池の需要が高まると考えております。

デジタルについてはお客様からのニーズが強く、こういうものが開発できるかという要望に対して粛々と対応しているのが実態です。エナセラは薄い電池でIoTのメンテナンスフリー化に役立つ電池で無線給電が世の中で出来るようになると爆発的に売れる可能性があると考えています。

# 要約キャッシュ・フロー



(億円)

|                   | '20/3                                   | '21/3                    | '22/3予                                        |
|-------------------|-----------------------------------------|--------------------------|-----------------------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー  | 532                                     | 856                      | (4月見通し)<br>(870)1,070                         |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー  | △608<br>設備投資支払△954                      | △517<br>設備投資支払△533       | (△490)<br>△550<br>設備投資支払△490                  |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー  | △188<br>新規借入+370<br>返済△290<br>自己株買付△100 | 123<br>新規借入+325<br>返済△94 | (△460)△440<br>新規借入+150<br>返済△330<br>自己株買付△100 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額等 | △29                                     | 52                       | (△40) △10                                     |
| 現金及び現金同等物の増減      | △293                                    | 513                      | (△120) 70                                     |
| 現金及び現金同等物期末残高     | 947                                     | 1,460                    | (1,340)1,530                                  |

© 2021 NGK INSULATORS, LTD. All rights reserved.

20

それでは当社の連結ベースでの要約キャッシュ・フローについてご説明します。

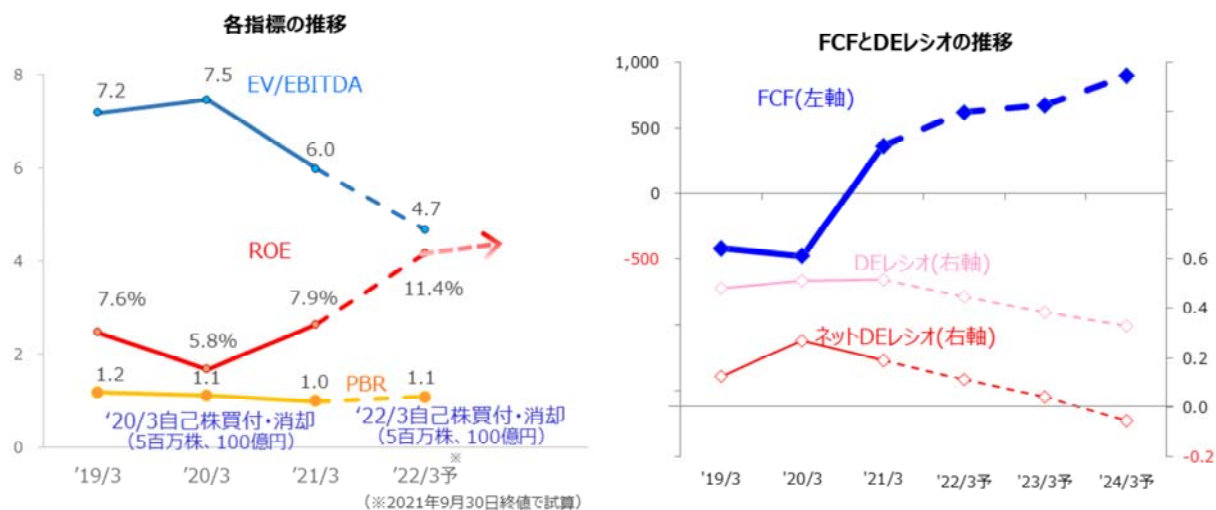
今期末の現金及び現金同等物の期末残高は、前期比70億円増加の1,530億円となる見通しです。フリーキャッシュフローは500億円を超える見通しで、財務活動によるキャッシュフローは、自己株式の買付や借入金の返済を既に実施済みであるほか、新規調達を見込んでおります。

4月見通しからは業績改善などによりキャッシュフローが190億円改善する見通しです。尚、現金同等物1,530億円の他に、この表には表れない債券等の運用資金が300億円程度あり、合計で1,830億円ほどの資金残となる見通しです。

## 資本政策



- ✓ 資本コストを上回る収益性の確保と財務健全性を両立。中長期の観点から積極的な株主還元。
- ✓ 利益率、資本回転率、財務レバレッジを事業戦略と整合した健全な水準に保つ。



- 22年3月期は業績改善に伴いROEも大幅改善の11.4%を見込む。
- 資金面では過去5年の設備投資から継続的なリターンが得られ、営業キャッシュフローは拡大する見通し。有利子負債も活用しつつ、成長へのインプットと株主還元を行う。

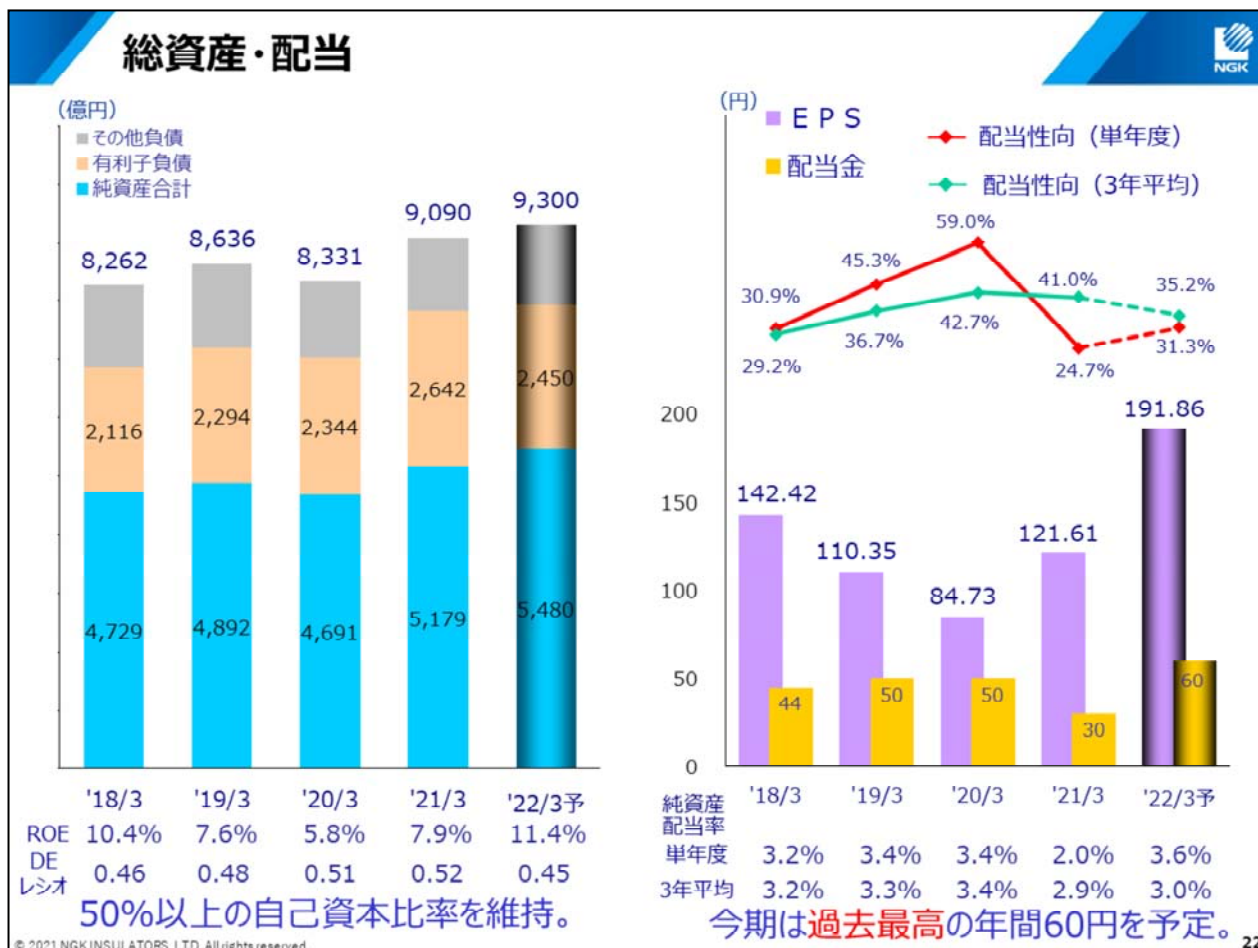
© 2021 NGK INSULATORS, LTD. All rights reserved.

21

次は資本政策です。

当社は資本コストを上回る収益性の確保と財務健全性を両立し、利益率、資本回転率、財務レバレッジを事業戦略と整合した健全な水準に保つことを意識しています。

左のグラフは各指標を示しておりますが、22年3月期のROEは業績の改善により、大幅改善の11.4%を見込んでおり、EV/EBITDA、PBRはご覧のような水準となっております。キャッシュ面では、過去に実施してきた設備投資から継続的なリターンが得られることから今後もフリーキャッシュフローはプラスで推移する見通しです。有利子負債も活用しながら、将来の新規事業に向けたインプットと株主還元を行っていきます。



最後に総資産、配当です。

2022年3月期の総資産の見通しは、セラミックス事業やプロセステクノロジー事業における増収で事業資産が増加し、前年度より約210億円増の9,300億円となる見込みです。DEレシオは、有利子負債の減少により22年3月期は0.45となる見通しです。

次に一株当たり利益、配当金です。当期の一株当たり利益は191.86円と大幅に改善する見通しです。配当金は、3年平均の配当性向と純資産配当率なども勘案して、中間は30円で決議、期末も30円とさせて頂く予定で、今期は過去最高の年間60円を予定しております。

# 事業別売上高（通期）

(億円)



| <セグメント間売上消去後> | 19年3月期 | 20年3月期 | 21年3月期 | 22年3月期 |
|---------------|--------|--------|--------|--------|
| が い し         | 467    | 408    | 391    | 395    |
| エナジーストレージ     | 32     | 25     | 28     | 15     |
| エネルギーインフラ合計   | 498    | 433    | 420    | 410    |
| ハニカム          | 760    | 698    | 637    | 710    |
| G P F         | 108    | 207    | 332    | 365    |
| Cd-DPF・大型ハニカム | 695    | 638    | 592    | 810    |
| S i C - D P F | 390    | 399    | 396    | 440    |
| セ ン サ ー       | 562    | 576    | 533    | 675    |
| セラミックス合計      | 2,514  | 2,518  | 2,489  | 3,000  |
| 金 属           | 223    | 194    | 193    | 230    |
| 電 子 部 品       | 263    | 271    | 279    | 290    |
| 双 信 電 機       | 102    | 90     | 69     | -      |
| エレクトロニクス合計    | 588    | 554    | 541    | 520    |
| 半導体製造装置用製品    | 725    | 653    | 801    | 940    |
| 産 業 プ ロ セ ス   | 310    | 261    | 270    | 280    |
| プロセステクノロジー合計  | 1,034  | 915    | 1,070  | 1,220  |
| 全 社 合 計       | 4,635  | 4,420  | 4,520  | 5,150  |

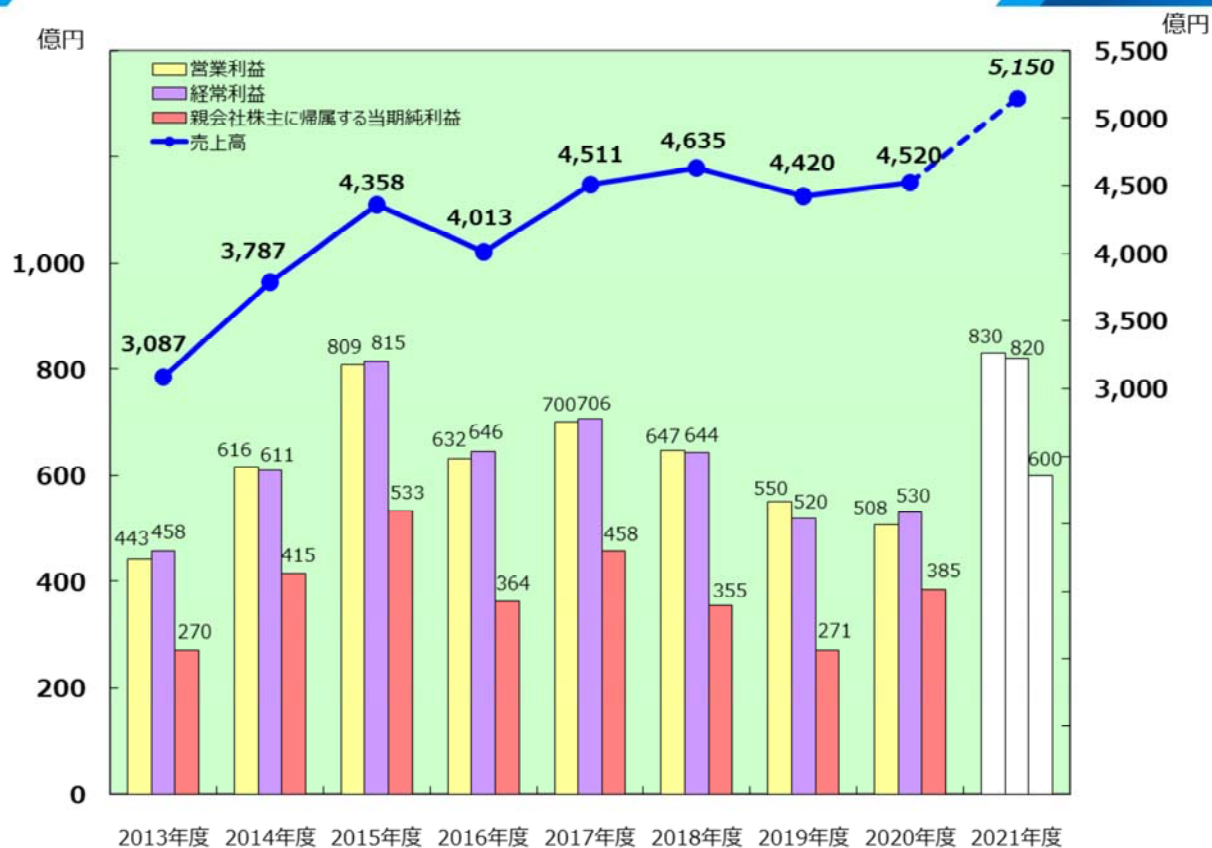
# 事業別売上高（上期・下期）

(億円)



| <セグメント間売上消去後>     | 21年3月期 |       | 22年3月期 |       |
|-------------------|--------|-------|--------|-------|
|                   | 上期     | 下期    | 上期     | 下期    |
| が い し             | 188    | 204   | 191    | 204   |
| エ ナ ジ ー ス ト レ ー ジ | 3      | 25    | 8      | 7     |
| エネルギーインフラ合計       | 191    | 229   | 199    | 211   |
| ハ ニ カ ム           | 251    | 386   | 358    | 352   |
| G P F             | 137    | 195   | 161    | 204   |
| Cd-DPF・大型ハニカム     | 224    | 367   | 409    | 401   |
| S i C - D P F     | 149    | 247   | 227    | 213   |
| セ ン サ ー           | 222    | 310   | 321    | 354   |
| セラミックス合計          | 983    | 1,506 | 1,476  | 1,524 |
| 金 属               | 88     | 105   | 117    | 113   |
| 電 子 部 品           | 136    | 142   | 140    | 150   |
| 双 信 電 機           | 44     | 25    | -      | -     |
| エレクトロニクス合計        | 268    | 273   | 257    | 263   |
| 半導体製造装置用製品        | 401    | 400   | 458    | 482   |
| 産 業 プ ロ セ ス       | 107    | 163   | 111    | 169   |
| プロセステクノロジー合計      | 507    | 563   | 570    | 650   |
| 全 社 合 計           | 1,949  | 2,571 | 2,502  | 2,648 |

# 業績推移



© 2021 NGK INSULATORS, LTD. All rights reserved.

本資料は当社の経営方針、計画、財務状況等の情報をご理解いただくことを目的としており、当社の株式の購入、売却など、投資を勧誘するものではありません。

本資料に記載されている業績目標及び数値等はいずれも、当社グループが現時点で入手可能な情報を基にした予想値であり、これらは経済環境、競争状況、需要動向などの不確実な要因の影響を受けます。

従って、実際の業績数値は、この配布資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知置きください。



**日本ガイシ株式会社**

〒467-8530 名古屋市瑞穂区須田町2-56

I R 窓口：財務部 開示グループ

Tel:(052) 872-7210 Fax:(052) 872-7160

E-mail：ir-office@ngk.co.jp

Website：https://www.ngk.co.jp



© 日本ガイシ・kero/dwarf